

もりしあ人

— 森があるしあわせを伝えたい —

遠藤 真弓さん

福島県生まれ神奈川県育ち。白鷹町地域おこし協力隊。神奈川県での会社勤務、長野県での山小屋勤務を経て平成28年1月に白鷹町に移住。地域行事の応援など地域活性化のため積極的に活動中。



地域おこし協力隊として白鷹町で活躍中の遠藤真弓さん。「しらたか木の駅プロジェクト」の活動を中心に白鷹町のこと、森のことをお聞きしました。

— 地域おこし協力隊と なったきっかけは？

昔の人がしていたような、時間がかかるけど無駄のない循環型の生活がしてみたくて、自然に近い場所です。暮らしながら地域おこし協力隊をやってみようと思いました。白鷹町に来ることになったのは色々な巡り合わせの結果で、これはもう運命ですね(笑)。白鷹町は地域の人もあたたかく、山や養蚕、紅花など素材も豊富などとても素敵なところ。ここに来られて本当に良かった！今は「しらたか木の駅プロジェクト」の事務局として主に木の駅の運営をお手伝いしています。

山から始まる地域の活性化

—「しらたか木の駅プロジェクト」とは？

地域の方が切り出した木を地域通貨「もり券」で買い取る仕組みです。私は主にもり券の発行を担当しています。もり券は地域内の色々な商店さんで使うことができます。木



遠藤さん作「もり券マップ」と「もり券」

を切り出してくれる地域の方の中には「もり券」を買ったことが夢だ！という方もいるんですよ。町内で買物をする方が増えたことで、地域の活性化にも繋がっているのではないかと感じています。

山をきれいにすることへのモチベーション

— 山には行かれましたか？

私もチェーンソーを持って伐採のお手伝いに行かせてもらったりしています。現場を知らない地域の方とお仕事ができないなと思って。まだ伐採作業は少し怖いです。でも一緒に汗を流して山の事を教えてもらうときはとても楽しい時間です。こういった機会をもっと増やして、知識も技術も高めていきたいです。

— 現場で感じたことは？

山から木を運び出すことが大変な場所が多いということ、若い世

代が少ないということ。特に若い世代は、仕事や子育てが忙しいうちは山に目を向けることは大変だと思えます。課題はありますが、山をきれいにしたいと考えている山主さんばかりです。そんな方に、私達が代わりに木を切り出してもり券に還元するという仕組みも考えていきたいです。

— 山に関心のある方が多いですね

プロジェクトの一環として一昨年からは、地域の方が自ら森を調査してその現状を数値化するというものです。専門的な知識が無くともできるという点がスゴイところ。なんとなくではなく、数字として「山の整備が必要」という結果が出てくる、そしてその結果をもとにごつすへきかを考えることで、山への関心がより高まっていると感じています。山主さんが木を切りたい！と思ったときにすぐに行動に移してもらえるモチベーションとして「木の駅」は有効だなと考えています。

山を感じる・自然を感じる

— 今後の抱負を教えてください

色々な方に山に入って自然を感じてもらいたいなと思っています。日々の生活が自然と共にあること、その厳しさや優しさなど。そのためには、気軽に山に入ることが出来る仕掛けづくりが必要かなと思います。今考えているのは、森の中の草木染めやハンモックで森林浴などのイベントです。ぜひ白鷹町内外の方に参加いただきたいと思います。



森の中ではたらくくるま

すごい



森から工場まで木を伐って運ぶときに使われているくるま(林業機械)を紹介するよ。

* 道をつくるよ グラップルバケット

- 1台で「土を掘る」、「木をつかんで動かす」仕事ができます。
- 伐った木や岩を動かして、土を掘り道を作ります。



* 木を伐るよ ハーベスタ

- 1台で「木を伐る」、「枝をきる」、「長さをそろえて丸太にする」の3つの仕事を1度にできます。
- 森の中に立っている木を伐って丸太に加工します。



* 丸太を大きな道まで運ぶよ フォワーダ

- 1台で「丸太を積む」、「運ぶ」、「丸太をおろす」仕事ができます。
- トラックが入れる道まで丸太を運びます。
- 急な坂も、ぬかるむ道でも丸太を運べます。



* 丸太をたくさん積んで運ぶよ グラップル付きトラック

- 森から出した丸太を工場まで運びます。
- フォワーダと同じく「丸太を積む」、「運ぶ」、「丸太をおろす」仕事ができます。
- フォワーダより1度に多くの丸太を運べます。

